

▶松本市の小学校とスペインインフルエンザ ー感染症の文書記録からー

会場：松本市文書館

スペインインフルエンザとは？

史上最悪のパンデミックといわれるほど、全世界で猛威をふるったインフルエンザです。A型(H1N1 亜型)のインフルエンザで、鳥インフルエンザの突然変異によって人間に感染するようになったと考えられています。

スペインインフルエンザは、世界では大正7年(1918)から8年にかけて3回の感染拡大が起きたとされています。日本における流行は、大正7年の秋から半年ほどと、大正9年1月から半年ほどに大きなピークがありました。

忘れられたパンデミック

世界中で大流行したスペインインフルエンザによる死亡者は2000万人とも4000万人とも言われます。人類の歴史上、1事案における最大の人的被害とされるスペインインフルエンザですが、長い間忘れ去られていました。全世界の感染者は新型コロナウイルスと同程度ですが、死亡者は新型コロナが660万人(R4.11.9現在)に対し、スペインインフルエンザは2000万～4000万人と言われています(統計の不備が多く諸説あります)

この展示では、およそ100年の世界的なパンデミックの際、松本の人々や小学校が感染症とどのように向き合っていたかを紹介しています。

展示資料目録

No.	資料名	年代	所蔵
1	流行性感冒予防に関する注意	大正7年(1918)	国宝旧開智学校校舎
2	流行性感冒予防心得(島立村役場文書)	大正8年(1919)	松本市文書館
3	開智学校 学校日誌	大正11年(1922)	国宝旧開智学校校舎
4	開智学校 校長日誌	大正7年(1918)	国宝旧開智学校校舎
5	開智学校 学校日誌	大正8年(1919)	国宝旧開智学校校舎
6	開智学校 校長日誌	大正9年(1920)	国宝旧開智学校校舎
7	学校衛生に関する規定	大正7年(1918)	国宝旧開智学校校舎
8	感冒予防撲滅に関する通牒(島立村役場文書)	大正7年(1918)	松本市文書館
9	ワクチンの価格に関する通牒(島内村役場文書)	大正9年(1920)	松本市文書館
10	ワクチン注射 注意事項(岡田村役場文書)	大正9年(1920)	松本市文書館
11	感染症対策徹底に関する通牒(寿村役場文書)	大正11年(1922)	松本市文書館
12	病原菌バクテリアの図	大正5年(1916)	国宝旧開智学校校舎
13	開智学校学校日誌(予防注射の件)	大正9年(1920)	国宝旧開智学校校舎
14	衛生教科書 マスクの図	大正14年(1925)	国宝旧開智学校校舎
15	塵埃よけのマスク売り	大正14年(1925)	国宝旧開智学校校舎